

栗原市地震防災マップ

揺れやすさマップ 金成地区

宮城県沖地震(単独型)の場合



金成地区

栗駒地区

- この揺れやすさマップは、海溝型の地震である宮城県沖地震(単独型)を想定した場合の震度分布を、100メートルメッシュ毎に表示しています。
- この地震は、平均すると37年に一度、1978年の宮城県沖地震と同様の場所と規模で同じように繰り返し起きると考えられているものです。今後30年間の発生確率は99%といわれています。マグニチュード 7.6 を想定しています。
- なお、ここに示した震度は、地震の規模や震源の距離から予想される平均的な揺れの強さです。地震の発生の仕方によっては、揺れはこれより強くなったり、弱くなったりすることがあります。

■マップの作成手順

このマップの作成にあたっては、おおむね次のような手順で、震度(揺れの大きさ)を予測しています。

○ 地域に影響の大きいと考えられる地震(海溝型の地震(震源・非海溝型による地震)、海溝型地震(宮城県沖地震(単独型)、連動型)、など)も起こり得る可能性を踏まえ、震源となる断層の規模や位置、形状などの情報を設定します。

○ それぞれの地震について、地震の規模や震源となる断層までの距離などにより、揺れの強さが変わる性質を用いて、「地表面付近(地下の基盤)での揺れの大きさ」を計算します。

○ 体に感じる「地表での揺れの大きさ(震度)」は、「地表面付近での揺れの大きさ」に「足元(表層の地盤)揺れやすさ」を加算することで求められます。一般的に、足元の地盤が軟らかいほど、より揺れやすくなります。地盤面では水たまりや低地帯がありますので、震度が大きくなります。

○ このマップでは、全域を100mメッシュに分割し、メッシュごとに地表での震度を詳細に求め、表示しています。

■震度の大きさ＝震度とはなにか？

地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を表すのが震度です。震度の決め方は国によって異なり、わが国では気象庁が定める震度階級によって震度を表示しています。従来は震度のうち最大の階級でしたが、平成8年10月からは震度6を揺れその揺れ強さ、5階・4階に分けて10階級に改定されました。また、気象庁が発表する震度は、気象庁が気象庁の観測所に設置した観測点の揺れを観測した観測点から推定していますが、最近では震度を観測するための「震度計」の設置されるようになり、この震度計の計測値(「計測震度」と言います。)をもとに計算震度を求めるようになっています。

震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物
2	大はしゃぎがましい。			
3	震動に気づく。戸を叩く音が聞こえる。			
4	震動に気づく。戸を叩く音が聞こえる。目覚まし時計が鳴る。電気が落ちる。	壁紙の剥がれや、おぼろげな揺れが感じられる。		
5	震動に気づく。戸を叩く音が聞こえる。目覚まし時計が鳴る。電気が落ちる。	壁紙の剥がれや、おぼろげな揺れが感じられる。家具が揺れる。		
6	震動に気づく。戸を叩く音が聞こえる。目覚まし時計が鳴る。電気が落ちる。	壁紙の剥がれや、おぼろげな揺れが感じられる。家具が揺れる。ガラスが割れる。		
7	震動に気づく。戸を叩く音が聞こえる。目覚まし時計が鳴る。電気が落ちる。	壁紙の剥がれや、おぼろげな揺れが感じられる。家具が揺れる。ガラスが割れる。土が動く。		

- 凡例**
- 震度
- 震度2以下
 - 震度3
 - 震度4
 - 震度5弱
 - 震度5強
 - 震度6弱
 - 震度6強(1)
 - 震度6強(2)
 - 震度6強(3)
 - 震度6強(4)
 - 震度6強(5)
 - 震度7

※このマップにおいて、川・湖沼等の周囲や市の境界部等で、計算上、色の塗られていない箇所があります。

栗原市 建設部 建築住宅課
TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313

